



の が き 野垣あきことまちづくりカフェ

子ども・暮らし・平和



2024年2月21日 No.177 連絡先 090-9293-8710 ご相談もどうぞ!

杉並区議会 第1回定例会

住民福祉の向上へ 来年度予算編成の前向きな変化



質問する山田耕平議員

岸本区政が誕生して一年半が経過し、来年度は二度目の本格予算です。9日、党区議団の山田耕平議員の代表質問で、他区に後れを取っていた施策が大きく前進することが明らかになりました。

党区議団の提案が実る 様々な施策が大きく前進

代表質問では震災対策の強化をはじめ、物価高騰対策、福祉、教育、人権など各施策について拡充を求めました。質問に対し、いくつもの前向きな答弁や姿勢が示されました。

給食費無償化の対象拡大

昨年10月から始まった区立学校の学校給食費の無償化は来年度も継続し、あらたに国立や私立に通う児童生徒にも給食費相当額にあたる給付金が支給されます。質問への答弁では、不登校の児童生徒にも給付金を支給することが示されました。

学校トイレの洋式化

前区政のもとで大きく立ち遅れていた学校トイレの洋式化は、23区中で23位になっていたことが明らかになりました。学校は震災救援所にもなるため、その機能強化も含め、早期にトイレの洋式化を進めるよう求めたところ、5年間で100%に近付けるとの答弁がありました。

補聴器の購入費助成

昨年6月から始まった高齢者の補聴器購入費助成制度について、区長は「制度を開始した意義は大きい」との認識を示しました。制度周知に力を入れ、補聴器

相談医の確保や認定補聴器技能者によるアフターケア等の充実に務める、と答弁しました。来年度は418名分の予算を計上しています。

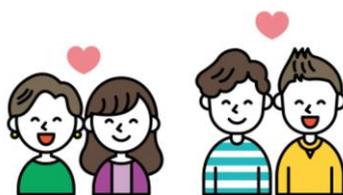
生活保護制度周知ポスター

生活保護に関連する質問で、岸本区長は生活保護制度を利用しやすくするための周知ポスター

を作成すると表明。また、区は今年度から、親族に扶養の可否を問い合わせる「扶養照会」について、申請者の意思に反して行うことをやめています。その結果、照会率は約29%にまで下がったことが示されました。

パートナーシップ制度

昨年4月から始まった性的マイノリティのカップルを自治体が認証する「パートナーシップ制度」は、1月末時点で25組の同性カップルが登録されています。今後は異性間のカップルも対象にすることを検討、と表明しました。



予算特別委員会の傍聴を!

新年度予算を詳しく審議する「予算特別委員会」は、前議員の出席で3月5日～15日の日程で行われます。杉並区政の前向きな変化をさらに進めるために、今定例会でもみなさんの傍聴をよろしくお願いします。

複線シールドで地下化求める住民の声無視できず 継続審査に

3千筆を超える署名が集まる

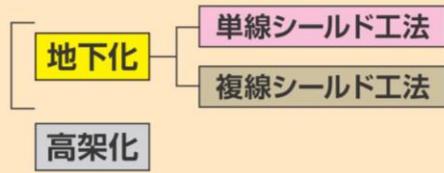
杉並・中野の住民でつくる「西武新宿線の地下化を求める連絡会」は、「野方―井荻駅間の連続立体交差について複線シールドでの地下化の調査検討を求める」陳情署名、約3,000筆を都議会に提出しました。

陳情は14日、都議会環境・建設委員会で審査されました。比較してないので答弁できず

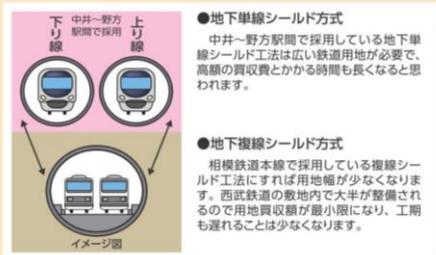
都が2017年に行った西武新宿線連続立体交差化の構造形式の検討は、地下化は単線シールド工法のみで、複線シールド工法での検討はされていません。

共産党都議団のアオヤギ議員は、複線シールド工法で用地買収面積は大きく減少するのではな

鉄道の連続立体交差化には主に以下の工法があります



●シールド方式による違い



下井草駅周辺まちづくり
杉並区が進める「下井草駅周辺まちづくり」では、駅周辺の道路・交通施設整備計画を策定するため、3月上旬にオープンハウスを開催する予定です。ワークショップでは計画案のたたき台が示されましたが、多くの住民がオープンハウスを見学し、声を届けていく必要があります。

いか、工期の短縮なども可能ではないかと質しましたが、都は「比較は行っていない」の一点張りで、答弁できませんでした。党都議団の他、自民党と無所属が質疑を行いました。陳情を否決する立場での質疑や発言はなく、継続審査となりました。傍聴した住民からは「(否決されず)ひとまず安堵ですが、これから本当の戦いです。」「継続審査とはどういうことなのか掴みかねる部分もあります。」「ただ調査が必要ってことなのだと思いません。東京都はぜひ調査検討してほしいです。」との声が寄せられました。

下井草駅周辺まちづくり

能登半島地震救援募金

にご協力をお願いします。

募金は中央委員会を通じて全額を被災地と被災した自治体への支援に充てます。

郵便振替 口座番号
00170-9-140321
加入者名
日本共産党災害募金係
通信欄に[能登募金]と記載のこと。

地域のこと、政治のこと
なんでも喋ろう



みんなのつどい

3月23日(土) 13時半～
ウェルファーム杉並3階

参加費無料

お話し 原田あきら都議、野垣あきこ前区議

あきらの部屋

最近、しんぶん赤旗日刊紙の総合欄に「ケアに生きる」という記事が。障害や介護福祉などで働く人の環境やコロナ禍での苦勞などの実態がリアルにつかめる内容です。▼全く違う職種からこの仕事に転職した方の話はエネルギーが溢れ、働きがいについて深く考えさせられます。「権利はたたかわらないと獲得できない」と、前は選挙にも行ったことがなかったが、今は政治を変える問題意識を持って行動する

るようになった、との嬉しい話も。▼しかし、共通するのは深刻な人手不足と低賃金です。一日で300万円の官房機密費を使っていた松野前官房長官ですが、この額はケア労働者の年収にも匹敵します。▼日本は若者が福祉で働くことを選択できない国に。福祉の貧困は今に始まったことではありませんが、特に訪問介護は崩壊寸前。福祉を投げ捨て、戦争する国づくりを進める岸田政権は許せません。